学校関係者評価委員会　評価報告書

（平成２６年度 自己点検・自己評価項目対照表、意見の活用状況について）

公益財団法人　愛世会

愛 歯 技 工 専 門 学 校

１，評価

(1) 評価対象　：平成２６年度　愛歯技工専門学校自己点検・自己評価に基づく、学校関係者による同項目の評価

(2) 評価日時　：平成２７年８月２２日（土）

(3) 評価者　　：学校関係者評価委員（学校関係者より選出、計４名）

江上　勝二　　（卒業生代表、有限会社ユアーズデンタルラボラトリー代表）
安藤　裕子　　（保護者代表、７６期在籍学生の母親）
吉田　茂夫　　（業界関係者、有限会社ラボスクエアー代表、港歯科技工士会代表）
榊原　功二　　（業界関係者、有限会社榊原デンタルラボ代表）

(4) 点検項目　：下記のとおりである。

1　教育理念・目的・育成人材像

1-1　教育理念・目的・育成人材像が定められているか
1-2　学校の特色は何か
1-3　学校の将来構想を抱いているか

2　学校運営

2-4　運営方針は定められているか
2-5　事業計画は定められているか
2-6　運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか
2-7　人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか
2-8　意思決定システムは整備されているか
2-9　情報システム化等による業務の効率化が図られているか

3　教育活動

3-10　学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか
3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか
3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか
3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか
3-14　キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか
3-15　授業評価の実施・評価体制はあるか
3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
3-17　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
3-18　資格取得の指導体制はあるか

4　教育成果

4-19　就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか
4-20　資格取得率の向上が図られているか
4-21　入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか、又退学率の低減が図られているか
4-22　卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

5　学生支援

5-23　就職に関する体制は整備されているか
5-24　学生相談に関する体制は整備されているか
5-25　学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
5-26　学生の健康管理を担う組織体制はあるか
5-27　課外活動に対する支援体制は整備されているか
5-28　学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか
5-29　保護者と適切に連携しているか
5-30　卒業生への支援体制はあるか

6　教育環境

6-31　設備・施設は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

6-32　学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

6-33　防災に対する体制は整備されているか。

7　学生の募集と受け入れ

7-34　学生募集活動は適切に行われているか

7-35　学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

7-36　入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか

7-37　学納金は妥当なものとなっているか

8　財務

8-38　中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか

8-39　予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

8-40　財務について会計監査が適性に行われているか

8-41　財務情報公開の体制準備はできているか

9　法令等の遵守

9-42　法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

9-43　個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

9-44　自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

9-45　自己点検・自己評価の結果を公開しているか

10　社会貢献

10-46　学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

10-47　学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

11　国際交流

11-48　グローバル人材の育成にむけた国際交流などの取り組みを行っているか

(5) 評価値　：

「５」 完璧 ／ 「４」 かなり進んでいる ／ 「３」 普通、まずまず ／
「２」 やや足りない ／ 「１」 ほとんど進んでいない ／ 「NA」 当てはまらない

※学校関係者評価委員内訳（委員氏名等は前頁及び別紙「第二回学校関係者評価委員会議事録」にも記載）

委　　員	委　　員　　種		備　　考
評価委員Ａ	「１号委員」	保護者代表委員（２学年在籍中の女学生の保護者）	第二回学校評価委員会より参加
評価委員Ｂ	「１号委員」	卒業生代表委員（業界関係者）	
評価委員Ｃ	「３号委員」	企業等委員（業界関係者）	
評価委員Ｄ	「３号委員」	企業等委員（業界関係者）	

大項目	点検・評価項目	自己評価値	自己点検・自己評価項目総評	学校関係者評価委員の評価値				学校関係者評価委員の意見
				委員A	委員B	委員C	委員D	
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 教育理念・目的・育成人材像が定められているか	4	【教育理念】「誠」 【教育目的】歯科技工士の養成 【育成人材像】 ・歯を愛し医の心を大切に歯科医療に貢献する歯科技工士の育成 ・人間美を想像する歯科技工士の育成	5	5	5	5	・創立以来、技術・人間性・社会性を身に付ける歯科技工士を育成している。こういう人材育成は必要です。 ・誠という理念は（これからも）大切に（すると良いと思う。）
	1-2 学校の特色は何か	4	「少人数指導」「実践教育（実習）の機会」を重視。実践教育の一つとして、附属の歯科技工所「愛歯技工研究所」や「愛歯技工専門学校附属歯科診療所」、臨床現場で働く歯科医師・歯科技工士から直接学ぶ機会を設けている。	5	4	4	5	・臨床の先輩から実践的指導をうけている。 ・臨床で働く歯科医師とのコミュニケーションが取りやすいと感じる。（同窓生意見） ・少人数指導と、現場の臨床に必要な歯科技工士の育成に努めている。
	1-3 学校の将来構想を抱いているか	4	歯科技工士のなり手が不足し、歯科技工所や歯科医院からの本学学生を対象とした求人は逆に増加傾向にある。本校としては、広報事業をはじめとする学生募集に力を注ぎ、より多くの歯科技工士の育成が急務と自覚している。	5	4	3	5	**・歯科技工士のなり手が不足している。育成が急務である。** ・（業界の）歯科技工士不足を解決するために、入学者を増やすなど、広報活動に力を入れている。 ・前向きに計画を考えている。
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	4	本校は公益財団法人愛世会を運営母体としている。年度ごとに方針を定め、また毎月運営理事会等を開催し運営状況の確認及び指針の策定・改善策を審議している。	5	4	5	5	・公益財団法人愛世会が経営母体の為、運営方針・管理は確かである。 ・運営方針がオープン（外部に公開されている）。
	2-5 事業計画は定められているか	4	事業計画は、毎年、公益財団法人愛世会本部に提出され、公益財団法人　愛世会ホームページ上で公開している。 特に近年は、入学者確保と就職支援を重要視した事業方針を掲げている。	5	4	4	5	・前向きな計画であると思います。

	2-6 運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか	3	個々の意見や運営上の問題点を科や部単位で会合をおこない、より良い学校運営に役立てている。意思の決定方法については会議により異なるが、決定が困難な場合は複数回会合の場を設けている。	5	4	4	4	・校内の勉強会やミーティングでの、個々の意見も大切である。 ・会合を多く設けていると思います。
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3	教職員及び従業員は人事担当職員が行っている。雇用契約法等国の法制度に基づき公益財団法人愛世会で人事・給与等の処遇基準を定めている。	5	4	4	4	・国の法制度に基づいている。 ・規定にそって整備していると思う。
	2-8 意思決定システムは整備されているか	3	本校幹部会議「部長会・科長会(各会とも月 1 回)」等での意思決定の場に加え、所属部署「教育部会(必要に応じ)」または業務担当同士で(毎朝 1 回)、また、必要に応じて会合を計画・実施している。	5	4	3	5	・(現状実施している会合などの意思決定の場は) 必要。 ・きちんと話し合いされていると思います。
2 学校運営	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	求人票の管理を専用ソフトで行い、求人票の送付（宛名ラベルの作成等）に活用している。また、共有ファイル等で教員間での成績や試験問題データのやり取りや管理を行い、円滑な授業運営に活用している。	5	4	4	4	・業務の効率化には、情報システム化は最も大切です。 ・管理されていて良いと思います。
3 教育活動	3-10 学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか	4	技工実習では、基礎実習とは異なる臨床的形状の作業模型を用い、難易度の高い実習を実践している。また、現役歯科技工士を特別講師とした実習の機会を取り入れるなど、実践的な知識・技術を有した歯科技工士の育成に努めている。	5	5	4	5	・二年という短期間で作業の効率や材料特性をふまえた実習を実践している。 ・二年間の卒前教育は、基本指導が最も大切であると思う。 **・もっと実践教育の場を**

3 教育活動	3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	4	二年次で歯科技工士免許（国家資格）の取得及び卒業後の企業等への就職を目標とし教育に従事している。 また、少人数のクラス編成で一人ひとりによりそった指導(就職試験対応)を実現している。苦手科目の克服と得意分野の向上に努めている。	5	4	5	4	・単科専門学校である。卒業後、企業等への就職を目標としている。 ・卒業時までに各学生のレベルアップを図っている。 ・個人に合った指導ができていると思います。
	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	4	カリキュラム(教育内容を学習段階に応じて配列したもの)に基づき、担当教員が科目ごとにシラバス(授業の計画書)を作成し、これを基本に授業を実践している。 毎年、学生の技術、学習レベルに合わせ時間割の組み替えなど編成している。	5	4	3	4	・学生のレベルアップのためには、ある程度強制的な指導も必要だと思う。 ・基礎教育をよくされていると思います。 **・技術教育により重きを（実習機会を増やしてほしい）**
	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	4	学科目の教本(全国歯科技工士教育協議会編集)の内容は、入学して間もない学生には専門用語が多く、一般的に難易度の高いものと考えられる。 そこで、教本の内容を踏まえ、基礎の実習(材料の性質、歯の観察)などを先行してスタートさせるなど、教本と実習がリンクするよう配慮している。	5	4	3	4	
	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	4	二年次二学期実施の「歯科技工実習」では、特に臨床の仕事を踏まえた実習を実践している。 技工箱に歯科技工指示書と作業模型を学生の人数分準備し、提出日に間に合う様、計画から製作、仕上げまで緊張感のある実習を実践している。	5	4	4	4	・卒業時の技術評価から、企業側の（愛歯に対する）期待は大きいといえる。 ・技工箱や技工指示書の採用など、臨床に近い技工実習である。 **・教本を何度も読ませて、理解させる事が必要。** **・臨床をふまえた「技工実習の充実」と、咬合についてや咬合器の使い方について、もっと指導するといい。**

	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	3	企業等による評価の機会もあるが、クラス担任との個人面談時に各教科の難易度、つまづき、について聞き取り、授業担当者と連携を持ちながら、各授業の評価を専任教員で実施している。	5	4	3	5	
	3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2	各分野の知見を有した専門教員が授業を担当している。 専任教員は積極的に学会・講演会、研修等に参加している。専門知識を有した教育者・研究者として、研究成果を論文で発表したり、明文化・書籍化している。 また、学説科目では大学教授等の外部の専門家に外来講師としてご指導いただき、専門知識・技術を有した医療系技術者の育成に取り組んでいる。	5	5	4	5	・学生数に対する人数としては良いと思います。 **・教育成果向上のための勉強・研究活動に非常に力をそそいでいるのは理解できるが、教員数や書籍数の充実を更に図ると良い。**
3 教育活動	3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3	学則に定める 100 点法、合否基準(60 点以上を合格)で評価している。 また、授業時には一人ひとりのレベルにあわせた指導対応を心がけているが、試験時には公正な基準で採点している。	5	4	3	5	・明確になっていると思います。 ・点数による明瞭な評価は学生のレベルアップにつながっていると思う
	3-18 資格取得の指導体制はあるか	4	学科目の国家試験実技対策として模擬試験を 10 回、必要に応じ試験後成績不良者には面接(学力分析と今後の対策指導)を実践。 実技科目は、20～30 回の本番を模した実習を行い、その都度評価表に作品の評価と今後の修正点を明示して作品返却を行っている。 特に実技科目に於ける反復練習による成果は高いと考えている。	5	5	5	4	・何度も何度も反復学習されていると思います。個々への指導を大切にしていていいと思います。 **・(現在やっているような) マークシート方式の模擬試験や実技科目の反復練習は必要である。** **・指導体制は最大の努力をされていると思うが、さらなる指導を望む。**

4 教育成果	4-19 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか	4	平成 26 年 3 月度卒業者は、正規雇用就職決定率 94%、求職者就職率 100%の実績を残した。 就職担当教員は早期に「個人面談」を実施し、就職に関わる意識を向上させ、希望分野を明確にすることで学生の就職活動をスムーズにし、就職率の向上に貢献している。また、会社見学時のマナー指導や実技試験対策・履歴書の書き方等、各学生の要望に応じて受講可能な就職講座を企画・開講し支援を行い、就職率の向上に努めている。	5	5	5	5	・会社説明会の実施は良い（機会だ）と思います。 ・会社見学の指導（勧め）などは重要である。 ・良く指導されている。
	4-20 資格取得率の向上が図られているか	4	平成26年度は全学生中94%が資格取得。資格取得に関しては、100%取得（全員合格）をめざし指導しており、毎年全員合格または全員に近い合格実績を誇っている。具体的には、成績不良者への補習や再試験等を適宜実施している。また、必要に応じ、保護者等と連携し、激励や学習態度等生活指導に至るまでの指導を行っている。	5	5	5	5	・休暇中にも補習や実習の指導があり、とても親身な指導が行われている。 ・少人数指導が良くされていると思います。 ・合格率と努力は評価できる。
	4-21 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか、又退学率の低減が図られているか	3	主な退学理由は①「病気疾患、家庭の事情等、個人的事由による退学」②「進路検討時とのギャップなどによる退学」③「成績不良による退学」の大きく三つが挙げられるが、②と③については低減可能と考えている。②については事業所見学による職場環境の様子説明等の機会を設け、業界について理解した上で受験を判断いただくこと。 ③に対しては各クラスで担任が、各学期末を中心に適宜個別面談の機会を設け、つまずきに対して具体的に指導している。	5	5	5	5	・少人数指導体制が、退学者の低減につながっていると思います。 ・進路検討者に対する、指導等は非常に評価できる。

4 教育成果	4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	少人数制教育により、在学生・同窓生（卒業生）との関係は強いと自負している。実際に卒業生と職教員との情報交換会(年 1 回、7 月)・同窓会(年一回、1 月)が(教職員参加)で行われている。また、外国等遠方に在住している卒業生・在学生の活躍の紹介が同窓会報や広報誌等で積極的に紹介されている。	5	4	5	5	・卒業生の活躍は、在校生にとっての夢や希望につながる、すばらしい事だと思います。 ・卒業生と教職員の結びつきは深いと感じる。同窓会もその一つである。 ・卒業生との結びつきは強いと感じます。(同窓生意見) **・この点のコミュニケーションは難しい。同窓会の協力が必要。**
5 学生支援	5-23 就職に関する体制は整備されているか	4	在学生については、毎年 6 月末頃に校内で合同企業説明会を実施し、業界内の中～大規模企業について理解を深めた後、就職担当が個人面談を実施し、個々の就職希望・意志についての明確化を促している。また企業からの「求人票」を公開し、学生の希望に応じて就職担当者が企業と連絡を取り、就職活動を支援している。卒業生には適宜個別相談対応している。再就職を希望する者に求人の紹介を行っている。	5	4	3	5	・企業説明会等が実施されている。今後も一方通行にならないような指導を心がけることが大切。 ・企業説明会が校内で開催されるのは（学生にとって）良い経験と思います。 ・会社と学校の関係が良いと思います。
	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか	4	本校では、担任制を採用し、主にクラス担任が学生相談の窓口になっている。その他、相談内容や個人のおかれている状況によっては、教務主任をはじめとする他教員や事務職員の適任者が対応する。	5	4	4	5	・良いと思います。 ・非常に成果が上がっている。

5 学生支援	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	在学中に使用する材料費等、学生の負担低減が検討できるものに関しては、毎年、購入検討、業者・品番の再選定などによる価格の見直し等低減を講じている。学費納入支援制度として本校独自に分期納入制度を設けている。また、奨学金制度の紹介等、個々のおかれている状況や家庭の事由を踏まえた上で、個別相談対応を行っている。	5	4	5	5	・奨学金制度の採用に努力している。 ・基本的に、教育等には時間と費用が必要。
	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	毎年 5 月頃、全学生を対象に健康診断を実施している。また、怪我等の処置・体調不良者については学内の保健室と徒歩 7～8 分程でアクセス可能な公益財団法人愛世会グループの「愛誠病院」（救急対応可能）で対応している。また、愛誠病院では専門医による精神面での健康管理・サポートも可能である。なお、授業担当者をはじめ、担任・副担任が学生の体調変化に気を配っている。	5	5	4	5	・愛誠病院がある。 ・充実してると思います。 ・良いと思います。
	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	学内外の講演会等の参加を積極的に勧めている。（ポスターの掲示・口頭での紹介）また、学生の自主性を尊重し、学業及び学生生活に支障がない範囲であれば専攻分野（歯科技工）以外での課外活動も勧めている。	5	4	3	4	**・情報提示や雑誌等の閲覧の勧めをもっと充実（すると良い。）** ・まずまず
	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	4	利用費が安価な学生寮を設けており、遠方からの通学が困難な学生が利用している。また、本校の食堂や寮の食堂、体育室の利用が可能である。	5	5	4	5	・安価な学生寮は非常に評価できる。 ・良いと思います

	5-29　保護者と適切に連携しているか	3	年間行事予定等情報の提供・共有や、成績不良者への激励・素行不良者への生活指導等の個別指導で連携している。	5	4	4	4	・保護者とのかかわりは重要であるが、密な連絡を取っている。 **・もう少し保護者との連携が図れれば最高です。** ・各学生に合わせて対応されていていいと思います。
	5-30　卒業生への支援体制はあるか	4	希望者対象に個別相談や再就職支援を適宜行っている。また、在学時より少人数制で一人ひとりに寄り添った指導により、「何かあったら相談できる」人間関係・環境づくりに努めている。同窓会報等での活躍紹介や、事業等の広報を可能にしている。	5	5	3	5	・支援体制は充実している。 ・卒業後も教員に相談できる体制づくりがされている。
6 教育環境	6-31 設備・施設は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	設備・施設についてはその都度点検・修理し、必要に応じて年度予算の範囲で購入している。平成26年度はＣＡＤ/ＣＡＭを導入し学生教育に活用した。	5	4	5	5	・ＣＡＤ／ＣＡＭによる教育機会導入などデジタル教育にも力を注いでいる。 ・ＣＡＤ／ＣＡＭ教育など時流に合わせて指導されてます。 ・費用がかかるので、難しいと思う。
	6-32　学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	例年10月～11月に実施する歯科関連企業見学等、実践的な知識の習得のための機会を設けている。また「研修旅行」では国内外の学会に積極的に参加している。 インターンシップに関しては、(夏期休暇中に)受け入れ態勢のある企業を対象に、(希望者には)参加させている。	5	5	3	4	・学生のうちに学会参加することは多くの歯科業界の方々が一生懸命活躍していることを感じられとても良いことだと思います。 ・学外活動は、将来のためにも大切です。 ・学外実習あり。

	6-33　防災に対する体制は整備されているか。	4	毎年、全学生・全教職員で防災訓練を実施している。訓練時に、板橋区の消防署職員に訓練の様子を見ていただき、改善点等アドバイスを受けている。また、例年校内教職員から2～3名が板橋区消防署主催の消防大会に参加しており、防災意識・技術の向上に努めている。なお、平成26年度板橋区消防署主催の消防大会では準優勝であった。	5	5	4	5	・充実していると思います。 ・良いと思います。
7　学生の募集と受け入れ	7-34　学生募集活動は適切に行われているか	3	本校では、進路検討者に「体験入学」での授業体験や、「授業見学」「職場見学」で実際の様子を見学した上での自発的な進路決定を勧めている。また、正確な情報提供と進路検討者・周囲との関係構築が募集活動においては重要であると考えている。関東圏を中心とする高等学校へ訪問し、進路指導担当教員に対して本校の教育成果等情報を提供し、出張授業の企画・運営等行った。	4	4	4	5	・少子化で進学希望者が技工界に入ってこない。ＰＲに力をそそぐべき。 ・より積極的な活動を
	7-35　学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	2	高校訪問時の高等学校教員の話から、歯科技工士という職業の存在を「知らない」高校生が多いとの情報を得た。体験入学で「進路検討時に初めて歯科技工士の存在を知った」という声も聞く。教育成果の周知及び学生募集活動にあたって、「歯科技工士の職業理解」が不可欠であると深く痛感し、平成26年度は校内ガイダンス、高校訪問、出張授業（二校実施）等で歯科技工士の職業理解ならびに本校の実績等の情報公開・提供に努めた。	4	4	3	5	・さらに充実させる必要がある。ポスターやホームページを活用 ・歯科医院等に歯科技工士専門学校のパンフレット等を置き技工士という職業を知ってもらうことができたら良いと思います。 ・歯科技工士という職業に対する認知度はあるが仕事の内容に対する認知は非常に低い ・体験入学は（学校の教育成果を伝える）良い機会だと思う。

7 学生の募集と受け入れ	7-36　入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3	試験では本校の求める学生像、募集要項に記載した情報に基づき判断している。また、歯科技工士は一般職とは異なり知識だけでなく作業面での適性等「実技」が重要な判断基準となる。そのため、入学選考ではイベント「体験入学」参加時の作業の様子や一般入試「彫刻試験」受験時の様子も考慮しており、その旨は事前に告知している。なお、適正かつ公正な判断のため、面接試験時に試験監督を２名の教員が担い、多様な視点から選考している。また、可能な限り年度内で同一教員が監督官となることで、同一基準による入学者選考を実現している。	5	5	4	4	・公平に行われている。 ・体験入学は（適性を判断する上で）良い（機会だ）と思う。
	7-37 学納金は妥当なものとなっているか	4	学生負担低減のため材料費等の見直し・改善に適宜取り組んでいる。本学の学生定員充足率や経営状況をふまえると学納金の増収が望ましいが、学生や家庭の負担を考え、平成 27 年度も値上げは行わない方向で検討している。	4	4	3	5	・良いと思う。 **・現状では値上げできないのでは。**
8 財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	2	ここ数年、学生募集等収入の面で安定しているとはいえない。幸いにも本校は附属研究所を併設しており、経営を一体化していることが強みとなっている。しかし、入学者数が定員になるような募集活動は急務である。	4	4	4	4	・定員に満たないがよく運営されている。 **・技工士という職業を広く一般に知ってもらうようにすれば学生も増加するのではないでしょうか。** ・公益財団法人愛誠会の一員として、安定している **・まずは３５人動員を目標に**

	8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	平成27年度予算については財務状況等をふまえ、予算縮小を決定した。しかしながら、学生使用教室等の設備保守代は必要であるため確保するなど、予算の中でも、必要経費と優先順位をふまえた経費の支出計画が重要である。また、学生募集活動の改善のための広報事業の予算を確保している。	5	4	5	5	・（学生）募集・ＰＲに力をそそぐべき ・学生募集を目標に
	8-40 財務について会計監査が適性に行われているか	3	毎年本部である公益財団法人愛世会の監査員（会計士）が会計監査を実施している。	5	5	5	5	・良いと思います。
	8-41 財務情報公開の体制準備はできているか	4	ホームページにて公開している。	5	5	4	5	
9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	2	厚生労働大臣指定の一専門学校として、法令・設置基準を守り運営している。また、適切な運営のため学則内で規律等に関して制度を設け、入学前や入学時の保護者会等の機会で学生ならびに保護者への周知に努めている。	5	4	5	5	・良いと思います。
	9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	状況に応じて、個人情報の取り扱い・保護及び公開の対策を講じている。例えば、学籍原本は鍵で施錠し、限られた者しか保管場所を知ることのないよう努め、必要な時に持ち出し・管理をしている。データ等はパスワードを設定し管理している。また、事務室内を対象とした個人情報保護に関する外部企業の監査が毎年一回実施されている。	5	4	5	5	・良いと思います。

９ 法令等の遵守	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3	毎年自己点検・自己評価を実施しており、評価項目並びに評価後の改善策について、部会等で審議している。	5	4	5	5	・良いと思います。
	9-45 自己点検・自己評価の結果を公開しているか	3	平成26年度自己点検・自己評価報告書は、作成済み、ファイルにまとめ閲覧可能にしている。また、現在リニューアル中のホームページ上で公開を予定している。	5	4	4	5	・（公開）されている。
１０ 社会貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	近隣の施設への駐車スペースの貸し出しや、高等学校等生徒のインターンシップの受け入れ（愛歯技工研究所）、小中学生の見学受け入れ等を実施している。 附属の「愛歯技工研究所」・「愛歯技工専門学校附属歯科診療所」や本校の運営母体である公益財団法人愛世会グループの「愛誠病院」「シルバーピア加賀（福祉施設）」「上野クリニック（人間ドック等健康診断実施機関）」によって、主に医療福祉面での社会貢献に力を入れている。	5	5	5	4	
	10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2	学業に支障のない範囲であれば学生の自主性を尊重し、各自の判断による参加を認め、活動を支援している。	3	3	2	4	・そこまでは、時間も費用もない。 ・良いと思います。

１１ 国際交流	11-48 グローバル人材の育成にむけた国際交流などの取り組みを行っているか	４	本校では、国内外の多様な視点から物事を捉えることができ、一医療人ならびに一歯科技工士として、知識や技術を積極的に周囲から学び、医療福祉分野・社会に惜しみなく活かし貢献できる人材を「グローバルな人材」と捉え、このような人材の育成を目標としている。平成 26 年度はロシアから来日した「クワタカレッジ」受講生 16 名と授業内外で交流した。	５	５	５	５	・（本校名誉校長の）桑田先生のクワタカレッジ受講生は様々な国からくるので、国際的な交流があると思う。 ・世界の桑田先生がいるため成果大である。 ・良いと思います。

２．学校評価委員会委員の主な意見のまとめとその活用状況について（現状報告）

意見概要	評価委員のコメント	学校側の見解、活用状況について
学生募集について	・**歯科技工士の**なり手が不足している。**育成が急務**である。 ・歯科技工士という職業に対する認知度はあるが**仕事の内容に対する認知は非常に低い。** ・さらに（学生募集活動関連の取り組みを）充実させる必要がある。 ・（学生）募集・ＰＲに力をそそぐべき ・３５名動員を目標に ・少子化で進学**希望者が技工界に入ってこない。**ＰＲに力をそそぐべき。 ・より積極的な活動を ・**歯科医院等に歯科技工士専門学校のパンフレット等を置き、技工士という職業を知ってもらう**ことができたら良いと思います。 ・**ポスターやホームページを活用** ・**体験入学**は（学校の教育成果を伝える）良い機会だと思う。	・<u>歯科技工士不足について、広報活動の充実について・・・</u> 本校においても、（意見でいただいたような）**より多くの歯科技工士の育成が急務である**と自覚しております。また、学校が積極的に歯科技工士の**仕事内容の認知、職業理解に努める**ことも、より多くの方に教育成果を理解してもらうためには必要だと思います。 今後の事業計画のなかでも広報事業を積極的に取り入れていきたいと思います。 ・<u>体験入学機会の活用・・・</u> 進路検討者には、まずは**体験入学の参加**をすすめ、（体験入学参加者へ）学校の**教育成果**について・本校が育成する「歯科技工士」の**仕事内容について**理解してもらえるように、一層尽力していきます。 ・<u>歯科医院等での広報・・・</u> **学校附属歯科診療所に、ポスターを掲示し、体験入学のお知らせ（チラシ）や、パンフレットを設置しました。**本校入学者の中にも、歯科医院等歯科関連の施設で「歯科技工士」の仕事について知った、という者が多いため、意見でいただいたような「良い」効果は見込めるかと思います。今後も、適宜、他の歯科医院等でも、**歯科技工士の仕事について興味を持ってもらえるような**、広報活動をしていきたいと思います。 ・<u>ポスターやホームページの活用について</u> **ポスターを高校訪問等で配布し、掲示をお願い**しています。 ホームページは**「歯科技工士について」**（仕事紹介）や**「就職実績」「情報公開」**のページを新たに作成し、情報提供に努めました。

意見概要	評価委員のコメント	学校側の見解、今後の活用方法、活用状況について
教育課程（カリキュラム）編成について、授業について	・もっと実践教育の場を ・技術教育により重きを（実習機会を増やしてほしい） ・臨床をふまえた「技工実習の充実」と、咬合についてや、咬合器の使い方について、もっと指導するといい。	実践・技術教育について・・・ 実技重視の教育、「手が動く」学生の育成は、開校以来の特色であり、業界企業等からも本校に求められている点だと思います。再来年、歯科技工士養成校単位制移行に伴い、本校でもカリキュラムを再編成する予定ですので、このような意見は取り入れていきたいと思います。 臨床をふまえた「技工実習の充実」と、咬合についてや、咬合器の使い方について、もっと指導するといい。 臨床家ならではの貴重なご意見、ありがとうございます。指導時、心がけていきたいと思います。また、現在実施している実践的企業等職員や臨床家による授業機会を、今後より増やしていきたいと思います。

意見概要	評価委員のコメント	学校側の見解、今後の活用方法、活用状況について
資格取得対策について	・（現在やっているような）**マークシート方式の模擬試験や実技科目の反復練習は必要**である。 ・教本を何度も読ませて、理解させる事が必要。 ・指導体制は最大の努力をされていると思うが、**さらなる指導**を望む。	本校では、現在、国家試験対策として学科目の**模擬試験を 10 回**、必要に応じ試験後**成績不良者には面接**（学力分析と今後の対策指導）を実践しています。実技科目は、**20～30 回の本番を模した実習**を行い、評価表に作品の**評価と今後の修正点を明示**して作品返却しています。 意見で挙げられたような「反復練習」の機会は、各テーマの学習・理解を深めるためにも、必要であると考えています。今後も、補習や、フォローアップに力を入れるなど、学生の 100%資格取得を目指して、教職員一同、一層の指導に取り組む所存です。

意見概要	評価委員のコメント	学校側の見解、今後の活用方法、活用状況について
就職対策について	・会社見学の指導（勧め）などは重要である。 ・企業説明会が校内で開催されるのは（学生にとって）良い経験と思います。	会社説明会や会社見学の機会は、（就職活動中の）学生にとって、**業界理解を深め、様々な企業を比較し、進路を検討する**良い機会だと考えています。 今後も、このような活動・指導をすすめていきたいです。

意見概要	評価委員のコメント	学校側の見解、今後の活用方法、活用状況について
卒業生・在校生の社会的な活躍の把握について	・この点のコミュニケーションは難しい。**同窓会の協力**が必要。 ・卒業生の活躍は、**在校生にとっての夢や希望につながる、**すばらしい事だと思います。 ・卒業生と教職員の結びつきは深いと感じる。同窓会もその一つである。 ・卒業生との結びつきは強いと感じます。（同窓生意見）	卒業生の社会的な活躍、取組みの把握に関しては、意見でいただいたような**同窓会との連携**が不可欠であると考えています。 今後も**同窓生役員との意見交換の場や交流の機会を積極的に設ける**など、皆さんの活躍の把握に努めていきたいです。 在校生に関しては、**クラス担任を中心に、適宜、情報把握**に努めています。今後も学校側から積極的にコミュニケーションしていきたいです。 また、**在校生の社会的な活躍（取り組み）**を助長し、そのような、業界全体にとって有益な人材を育成するために、個々の**得意分野を早期に把握し、一層の指導**ができるよう心がけています。

意見概要	評価委員のコメント	学校側の見解、今後の活用方法、活用状況について
情報提供、保護者との連携について	・情報提示や雑誌等の閲覧の勧めをもっと充実（すると良い。） ・もう少し保護者との連携が図れれば最高です。（同窓生意見）	情報提供について・・・ 現在、学生への**学会・講演会への参加の勧め**をＨＲなどで行い、情報提示に努めていますが、今後も一層の情報提示に努めていきたいです。 保護者との連携について（同窓生意見）・・・ ・学業の充実には、**学生保護者との連携**は不可欠であると考えています。 特に、国家試験という難関を控えている本校在学生については、**直前まで保護者と連携を図り、課外での学習の様子や生活面でのサポート**も（学校側から）サポートするよう心がけています。 今後も連携機会を増やしていきたいと思います。

資料作成日：平成２７年８月２４日